

令和元年度 学校自己評価表 最終報告

海田町立海田南小学校

令和元年2月28日

学校経営理念

- 子ども：「自分のよさが発揮でき、学習することが楽しいと感じることができる」学校
- 保護者・地域：「子どもを通わせてよかった、学校があってよかったと思える」学校
- 教職員：「持ち味が発揮でき、チームで動き、やりがいのある」学校

評価計画	自己評価 中間				自己評価 最終				
	ビジョン(めざす姿)目標	評価項目(取組)	評価指標(目標値)	評価	中間結果補助指標	評価	最終結果補助指標	今年度の成果(○)課題・改善(●)	
か	考えぬく頭 自ら考え、『見方・考え方』を豊かにし、深い学びをする児童	1 カリキュラムマ・ネジメントを行い、児童が深い学びをする課題発見・解決型の授業を行う。	「課題発見・解決学習」に関する児童意識調査の肯定的評価の割合	82.5%以上 4 80%以上 3 77.5%以上 2 77.5%未満 1	「課題発見・解決学習」に関する児童意識調査の肯定的評価の平均は、79.1%であり、昨年度の同時期と比べ1.8ポイント上がっている。	4 3 2 1	「課題発見・解決学習」に関する児童意識調査の肯定的評価の平均は、81.9%であり、昨年度の同時期と比べ0.4ポイント上がっている。	○カリキュラムマネジメントの考え方に基いて、カリキュラムマップを作成し、昨年度までの課題を改善しながら単元の質の向上を図った。 ○各教科において、教師と児童が単元のゴールを共有できた。 ●ゴールに向けて何を学んでいく必要があるかを話し合わせながら学習活動を設定していくことが今後の課題である。	
			2 家庭・地域と連携した体験活動を生かした道徳科授業の推進を図る。	「道徳の授業のチェックリスト」の項目の平均達成数	10個 4 8個以上 3 5個以上 2 5個未満 1	考え議論する道徳の授業のチェックリストの項目の平均達成数は7.35であり、昨年度の同時期と比べ0.85ポイント上がっている。	4 3 2 1	考え議論する道徳の授業のチェックリストの項目の平均達成数は8.3であり、昨年度と比べ1.3ポイント上がった。授業研究を重ねながら、授業改善が行われた。	○家庭や地域との連携が進み、体験活動や他教科等との関連を図った道徳学習プログラムが充実したことにより、児童が学習のテーマに向けて深く考える授業改善が進んだ。 ●児童が友達と対話しながら多様な考えに触れたり、自分の考えと比べたりすることのできる授業づくりを進めていく。
			3 各種学力調査(全国・NRT・CRT等)の結果を分析し、課題を見つけて取り組む。	各種学力調査(全国・NRT・CRT等)の正答率30%未満の児童の割合	0% 4 10%未満 3 15%未満 2 15%以上 1	全国学力テスト正答率が30%未満の児童の割合:国語3.1%、算数4.2%であった。NRT正答率が30%未満の児童の割合:2年1%、3年4%、4年6.1%、5年5.3%	4 3 2 1	CRT学力調査の30%未満の児童の割合:1年0%、2年0.5%、3年2%、4年1.8%、5年3.2%、6年0.4%であった。	○学力テストの結果分析をもとに、各学年で課題を明確にして取り組んだ結果、基礎・基本の学力は、ほぼ定着できた。 ●30%未満の児童に対しては、個別の指導を行うことにより、基礎学力の定着を図る。
			4 考えるノート指導、意味のある家庭学習の習慣を身につけさせ、基礎基本の学力の向上を図る。	職員室前掲示板に、児童の考えが見えるノートを掲示する学年ごとの月の枚数。	9枚以上 4 6枚以上 3 3枚以上 2 2枚以下 1	9月までに、1～5年生で6枚以上の掲示ができた。自分の考えが残るノートとして、児童のよい手本となった。	4 3 2 1	2月までに、1～6年生で9枚以上の掲示ができた。	○自分の考えだけでなく、めあてとまとめのつながりを意識して書かせたり、振り返りの視点を明確にして書かせた。掲示が児童のよい手本となり、ノートの内容の質が高まった。 ●書くことが苦手な児童への手立てを行う必要がある。
			5 朝のぐんぐんタイムを活用し、音読や計算などを繰り返し行い、脳の活性化と基礎基本の学力の定着を図る。	各学年で指定した詩を覚えた児童の割合	85%以上 4 80%以上 3 75%以上 2 75%未満 1	指定した詩を覚えた児童の割合は65%、計算プリントの正答率80%以上の児童の割合は86%であった。	4 3 2 1	指定した詩を覚えた児童の割合は94%、計算プリントの正答率80%以上の児童の割合は90%であった。	○ぐんぐんタイムで繰り返し音読したり、目標を意識して取り組んだりすることで、暗唱することができる児童や正確に計算を解く児童の割合が向上した。 ●各学年が使用した教材を交流し、学年の実態に合った内容になっているか精選する必要がある。
い	進んで読書をする児童	6 児童が積極的に読書活動を進めるような図書館教育、家庭での読書の推進、及び委員会や学級指導を行う。	児童が積極的に読書活動を進めるような図書館教育、家庭での読書の推進、及び委員会や学級指導を行う。	85%以上 4 80%以上 3 75%以上 2 75%未満 1	読書名人24人。保護者アンケート「家庭でフタミ読書を月1回以上取り組んでいる」は67.1%であった。	4 3 2 1	1月末までの貸出し冊数は36406冊。昨年度の1年間の貸出し冊数を13491冊上回った。貸出し冊数一人平均56.4冊で、読書名人は198人で全体の30%であった。	○「読書名人」や「よみよみ大賞」の表彰などの取組により、児童の読書意欲が高まり、貸出し冊数が大幅に増加した。 ○学校司書と連携し、全学年が図書室の利用の仕方や本の探し方を学ぶことができた。 ●委員会や子ども司書の児童を巻き込みながら、学校での読書活動を充実させるとともに、家庭での読書を推進していく。	
			7 児童会と連動した生活目標を実施し、整理整頓・あいさつ・無言清掃・無言集合を自分から進んでする児童を育てる。	あいさつは、教職員・保護者・地域ボランティアの肯定的回答の割合。整理整頓・無言清掃・無言集合は、教職員の肯定的回答の割合。	80%以上 4 70%以上 3 60%以上 2 60%未満 1	教職員の肯定的評価の割合は、あいさつ62%、整理整頓76%、無言掃除96%、無言集合90%。保護者・地域の肯定的評価の割合は、あいさつが平均84.5%。	4 3 2 1	教職員の肯定的評価の割合は、あいさつ75%、整理整頓84%、無言掃除92%、無言集合95%。保護者・地域の肯定的評価の割合は、あいさつが87.5%であった。	○挨拶の取組では、成果を競うことで児童の意識を高めることができた。 ●挨拶の取組期間が終了すると児童の挨拶の意欲が減退した。日常的な指導で挨拶の啓発を図る必要がある。 ●掃除では、自分の役割を理解して率先して活動できる児童が増え、静かに取り組んでいる。丁寧に掃除ができていない場所があるので、掃除の仕方についての指導が必要である。
た	たくましい体 自ら体力の目標をもって向上させ、健康な生活を創る児童 人や自分の命を大切に、安全な生活を自分で創る児童	10 養護教諭・栄養教諭と協働した保健・食育の立案と推進を図る。	年間60時間以上(栄養教諭:40時間、養護教諭:20時間)担任と連携し、保健・食育の指導を行う。	50時間以上 4 40時間以上 3 30時間以上 2 20時間以上 1 10以上～12 4	担任と連携し、保健・食育の指導を、栄養教諭:15時間、養護教諭:6時間、計21時間行った。	4 3 2 1	担任と連携し、保健・食育の指導を、栄養教諭:37時間、養護教諭:25時間、計62時間行った。	○担任と連携して保健・食育の指導を行うことで、児童の実態を知ることができた。また、実態把握を行うことで、指導内容を工夫することができた。	
			11 体力テストの結果(H31年度)を受け、重点項目における体力の向上を図る。	各学年で重点項目を1つ決めて記録向上に取り組む、2学期終了までに2回目の測定を行う。その際、全国平均値を上回る学年(男女別)を10以上にする。	7～9 3 4～6 2 3以下 1	体力テストで平成30年度広島県平均かつ平成29年度全国平均を超える割合(各学年の全国平均超種目数の割合÷全体の種目数)は50%(○上体起こし▼50m走、立幅跳、ボール投げ)	4 3 2 1	各学年で重点項目を決め、改善に向けて体力テストを行った。12種目中、8種目が全国平均値を上回った。 ●記録は向上したが、全国平均値を上回ることができなかった種目があった。継続的な取組が必要である。	○各学年で決めた重点項目の取組で、すべての学年で1回目の測定値より、記録が向上した。 ●記録は向上したが、全国平均値を上回ることができなかった種目があった。継続的な取組が必要である。
			12 安全教育(保護者と連携した児童引渡し訓練、必然性のある避難訓練、防犯教室、スマホ教室等)、教職員の危機管理対応研修を通して、安全に気をつけた行動のとれる児童を育てる。	改善を次に生かす職員研修を、講師を招聘し行う。	4回以上 4 3回 3 2回 2 1回以下 1	救命救急・不審者対応の教職員対象の研修を行い、その後の学校生活や、避難訓練に生かすことができた。	4 3 2 1	町の職員の方を招いて「災害にかかわる研修」を行った。講師を招聘して行った職員研修が4回となった。	○いろいろなケースの避難訓練を実施できた。訓練後の反省をもとに、改善案を考へ、次の訓練に生かすことができた。 ○講師を招聘しての研修を4回実施した。職員と児童の訓練への意識が変わってきた。
みなぎる ・みんなの力で	13 丁寧な家庭連携、地域行事への積極的な参加を通して、地域・保護者に信頼される教職員集団をめざす。	保護者アンケートにおいて、「信頼される学校」に関する項目の肯定的評価の割合を80%以上。	90%以上 4 80%以上 3 80%未満 2 70%以下 1	学校評価保護者アンケートにおいて、「教職員は素早く丁寧に対応し相談しやすい」の肯定的評価が94.6%、「海田南小学校の教育に満足している」の肯定的評価が94%であった。	4 3 2 1	学校評価保護者アンケートにおいて、「教職員は素早く丁寧に対応し相談しやすい」の肯定的評価が96.5%、「海田南小学校の教育に満足している」の肯定的評価が、93.6%であった。	○児童・保護者の思いや願いを受け止め、組織で対応したことが、保護者の安心・信頼を得ることにつながった。 ○担任は、児童の学校での様子を、分かりやすく保護者に説明したことで、担任の考えを保護者が理解し、協力体制ができた。		
		14 タイムマネジメントで仕事を行うことを通じて、退校時刻を守り、見通しをもって仕事ができる教職員集団をめざす。	毎月3回以上、退校時刻を守ることができた教職員の割合を80%以上。	90%以上 4 80%以上 3 80%未満 2 70%以下 1	毎月3回以上、退校時刻を守ることができた教職員の割合が、6月が70.5%、7月が51.6%、8月は94.1%であった。	4 3 2 1	毎月3回以上、退校時刻を守ることができた教職員の割合が、11月が87.5%、12月は91.6%で後期は目標をクリアした。	○学年主任がリーダーシップをとり、学期末の多忙期、成績処理等、計画的に仕事が行えるようになってきた。タイムマネジメントで仕事を行うことについての教職員の意識が高まった。 ●会議等の終了時刻をあらかじめ設定し、時間内で終わるようにする工夫が必要である。	